

令和元年12月20日

## 令和元年度第9回アーバンデザインセミナー実績報告書

### (1) 開催日時

令和元年12月7日(土) 10時30分～12時00分

※その後1時間の交流会(自由参加)あり

参加人数: 4名

### (2) テーマ

「発起人は大学生! くさつ Farmers' Market に迫る

～この景色をいかに描き、どう実現したのか?そして未来はいかに!？」

### (3) 話題提供者

内田修次(立命館大学スポーツ健康科学部4回生)

### (4) 話題の概要

#### ● 自己紹介

- 立命館大学スポーツ健康科学部の学生でありながら、「農業団体 ORGANiC」代表であり、「くさつ Farmers' Market」発起人である。
- ニュージーランド留学の際、週末の市民の憩いの場として機能するファーマーズマーケットに魅了される。
- 日本でもそのような空間を創りたいと、「くさつ Farmers' Market」をスタート。

#### ● ファーマーズマーケットとは

- 単なる直売所とは違う。
- 生産者が自分自身で生産物を販売するので、生産者の顔が見える安心感がある。自然と会話が生まれる場。
- 収穫されたばかりの新鮮なもの、こだわりのもの、珍しいもの、加工品などが販売されている。
- その場でごはんも食べられる。



- くさつ Farmers' Market とは
  - 毎月 1～2 回、草津川跡地公園 de 愛ひろばにて開催。
  - 滋賀県内の農家を中心に約 50 店舗がパートナーで、各回 20～25 店舗が出店。
  
- ポリシー
  - 季節感、地域の魅力、良き縁、健康、自然を大切に考えている。
  - “人間らしい本来の豊かさ”とは何なのか、ファーマーズマーケットを通じて感じてもらいたいという想いと願いがある。
  - ファーマーズマーケットは、事務局、出店者、来場者、みんなで共創する場。事務局のみが運営者ではなく、みんなが運営者であるという考え方。
  - 非日常的なイベントとしての開催ではなく、日常にそっと根ざす存在でありたいと願っている。
  
- 対話による関係人口の拡大
  - プレ開催から本開催に移行するタイミングで、クラウドファンディングを実施。もしも目標金額に満たなければファーマーズマーケットは必要とされていないと判断し、本開催はしない決意で挑んだ。結果、目標金額に達したので本開催に至った。市民に開催の是非を問う対話としてのクラウドファンディングであった。
  - 出店農家さんを一軒一軒訪れ、各農家さんの魅力を伝え、広く発信するレポート記事をサイト掲載。丁寧に対話を重ねてまとめられたレポートは、すでに 20 記事以上に上る。
  - UDCBK にて事務局と出店者の交流会を実施し、互いの対話の機会を創出。
  - 「シェフ in the Market」や、道路に面しておらず安全という de 愛ひろばの地形を生かした子ども向け「おつかいできたよ in the Market」といった取り組みを展開。  
→ファーマーズマーケットの場でコミュニケーションが生まれる仕掛け
  
- 成功のかたち
  - 人がいっぱい来て盛り上がればそれで成功とは考えていない。
  - 「くさつ Farmers' Market」が目指すのは、あくまで非日常ではなく日常。
  - 地域の人々の日常としてライフラインのようになれば、それが成功のかたちではないかと想定している。

- 事業継承
  - 大学卒業・就職を控え、来年度に向けての事業継承という課題があった。
  - 農家さんが新たに事務局に加わることになったり、メインで関わってくれる方が現れ、来年度の開催が無事に決まった。

- 失敗談
  - 地域の学校の運動会と重なったため、来場者がとても少ない回があった。

#### (5) 主な質疑応答

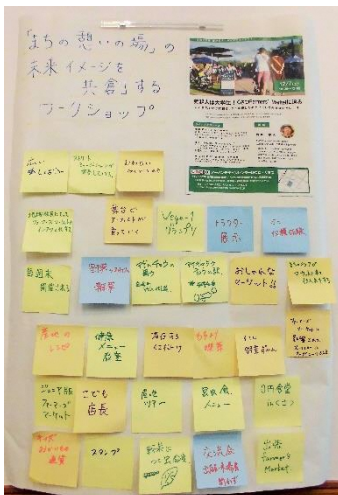
- さまざまなポリシーがあるが、それらは最初からあったのか？それとも開催を重ねる中で築き上げられていったものなのか？
  - ある程度最初からあった。

#### (6) ワークショップ

- 「まちの憩いの場」の未来イメージを共創するワークショップ
  - まず、参加者・講師・スタッフがそれぞれ自己紹介し、好きな野菜は何かを述べた。  
→ワークショップを進めるために必要な和やかな雰囲気を創出。
  - 自分ならどんな「まちの憩いの場」がこのまちで実現していたらワクワクするかを考え、各自付箋に書いてシェア。
  - 他者のアイデアにどんどん乗っかり、連想を広げ、イメージを膨らませてもらいながら進めた。



#### (7) まとめ



草津の週末の憩いの場として、少しずつ定着しつつある「くさつ Farmers' Market」。発起人の大学生たちが、その光景をいかに描き、どのように実現してきたのかをお話しいただくセミナーであった。そこには、一貫したポリシーがあり、つねに関わる人たちとビジョンを共有しながら、一緒に歩んできた様子が見えてきた。

また、講師が出店農家さんのお茶を参加者に振る舞ったこともあり、和やかな雰囲気の中で後半のワークショップを実施でき、「まちの憩いの場」のアイデアが膨らんだ。

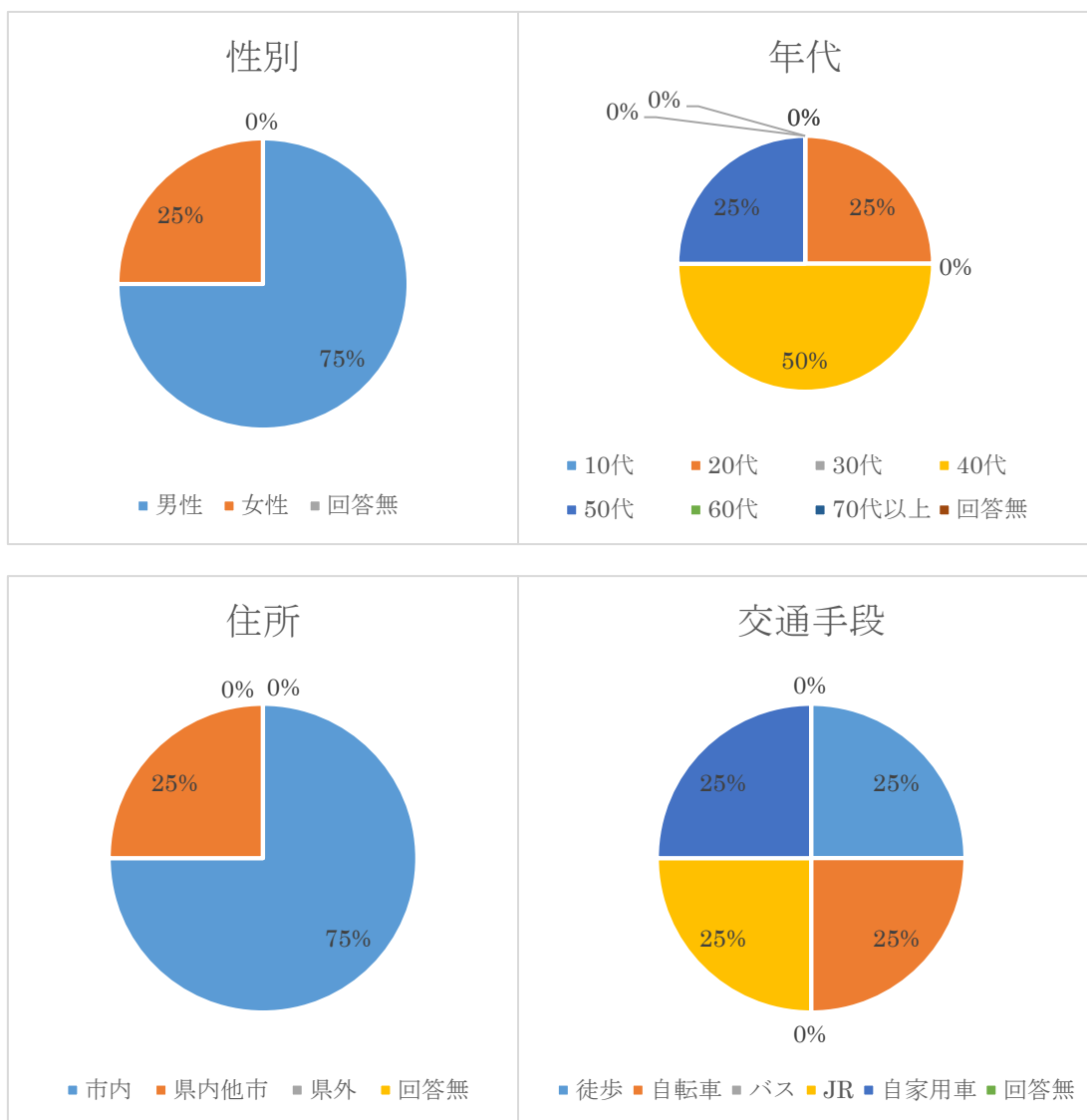
UDCBK 壁面にワークショップの成果を展示している

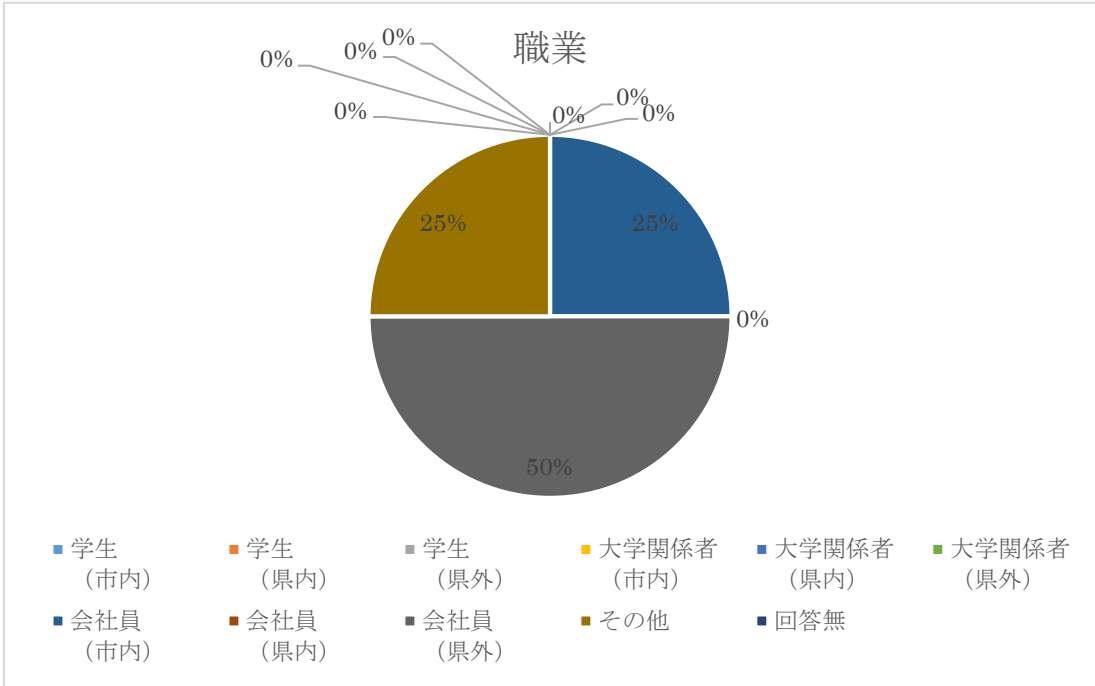
ので、今回の参加者だけに限らず、興味のある人に御活用いただければと期待している。

## (8) アンケートまとめ

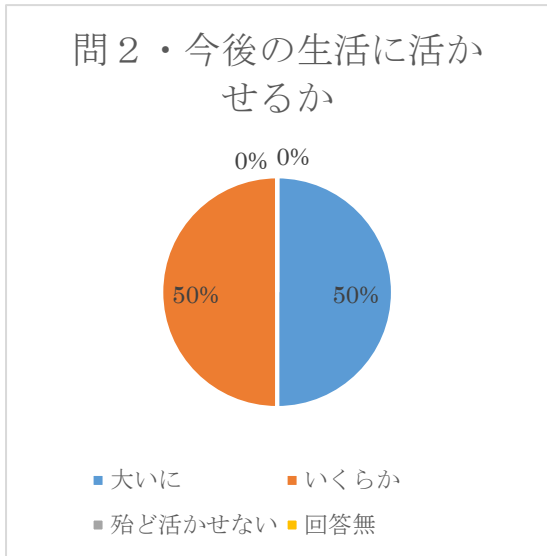
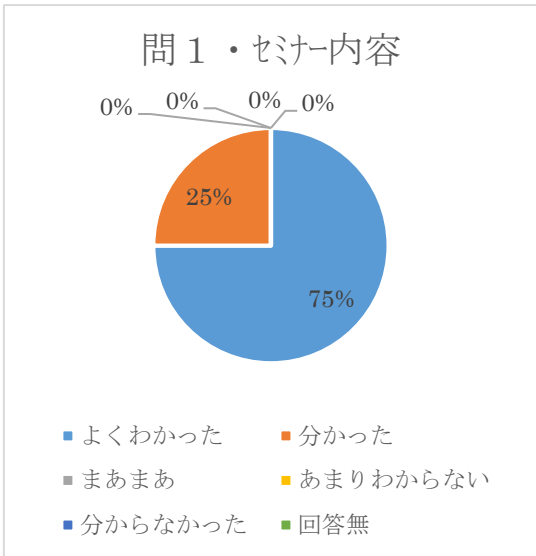
### ① 参加者属性

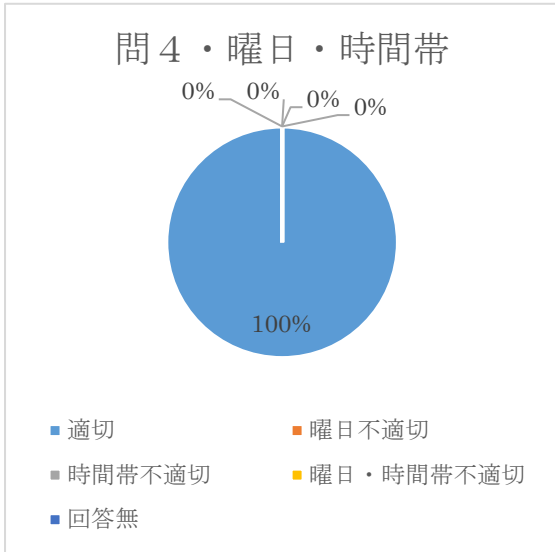
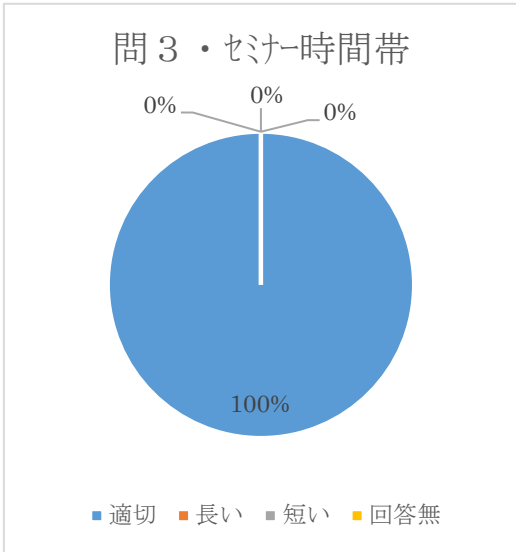
参加者4名のうち、アンケートに回答いただいた方は4名、回答率は100%だった。





② 内容について





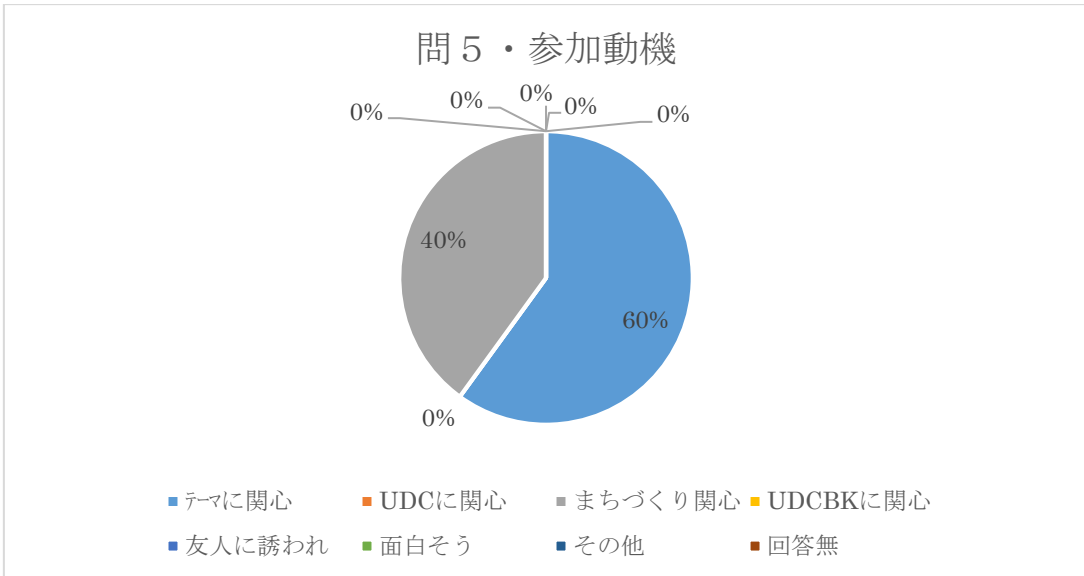
【自由記入欄回答】

問3. 時間はどうでしたか。

回答なし

問4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

回答なし



【自由記入欄回答】

問5. 今回参加した動機についてお聞かせください。それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- ・空間プロデュース・機会の創生（４０代男性）
- ・人と人の出会いの場（４０代男性）
- ・まちづくり、地域ブランディング、食文化（２０代女性）

【自由記入欄回答】

問６．今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- ・草津川跡地公園で、「くさねっこ」と共同開催し、草津で **Farmers' Market** と開催している目的や今後の展開に興味があり参加した。最近では、スーパーでもオーガニック野菜が販売されているが、生産者と顔をあわせて会話を楽しみながら安心して購入でき、飲食なども楽しみながら、ゆとりを感じる休日の空間が定着してほしいという思いが印象に残った。

草津小市×くさつ **Farmers' Market** 草津川跡地公園開催とは異なり、路地をめぐりながら楽しめ、より町と一体感があり、普段の生活との距離を近く感じる事が出来た（５０代男性）

- ・緑のレモン

行きつけの美容院等はあるのに、行きつけの農家は聞かない なるほどと思った。運動会がイベントと被った イベントを開催するときの注意事項として参考になった（４０代男性）

- ・海外では、ファーマーズマーケットが“日常”として行われている。来る人、出店する人が同じ参加する立場+距離をちぢめる効果。

クラウドファンディングの反応により、継続的に開催+来年卒業後も、市民によって引きつがれる（４０代男性）

- ・生きていくうえで欠かせないものであり、私たちにとって最も身近な「食」を通じて、地域の活性化や魅力発信に向けた取り組みが、大学生の若い力で進められているということに、行政職員としても一市民としても大変嬉しく感じました。予算や実現可能性に捉われず、自由に意見を出し合えるワークショップも楽しかったです。ワークショップで出た夢のあるアイデアを、ぜひ今後のファーマーズマーケットで実現してほしいなと思います（２０代女性）